

白神の絆

令和8年2月27日発行 No.232 (2月号)

白神岳遠望 (令和8年2月25日撮影)



【発行】林野庁 東北森林管理局

住所：青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野 70-82

津軽白神森林生態系保全センター

TEL：0173(72)2931

令和7年度 森林・林業技術交流発表会について

令和8年1月29日～30日にかけて令和7年度森林・林業技術交流発表会が秋田県秋田市あきた芸術劇場ミルハス中ホールで開催され、当センターは29日に「白神山地周辺地域自然再生計画箇所天然更新状況調査（10年間のプロット調査結果）」を発表してきました。その発表内容についてご紹介します。

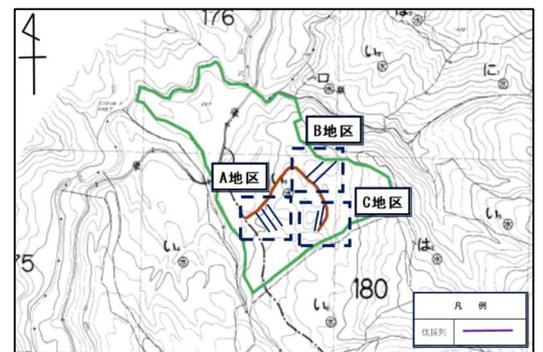
平成5年12月に世界自然遺産に登録された白神山地の周辺地域にある青森県鰺ヶ沢町の赤石川流域及び西目屋村の暗門川流域には森林空間利用タイプに類型区分されたスギ人工林が約1,277haあります。里山に近い箇所などでは、生育が良好な林分が見られますが、標高の高い地域では、広葉樹の侵入が進んでいます。

このような人工林内では、これまで、様々なボランティア団体が広葉樹林化などの自然再生に向けた取り組みを行っていますが、自然再生に向けた方向性を示すとともに、ボランティア活動の指針等を作成するため、平成19年度に「白神山地周辺の森林（もり）と人との共生活動に関する協議会」を立ち上げ、翌、平成20年度には、白神山地周辺地域自然再生計画書（自然再生マップ）を策定しました。この計画書に基づき、スギ人工林を元の広葉樹主体の天然林に戻すため、自然再生に向けた取り組みを行ってきました。そのなかで、平成27年度暗門川流域で列状間伐が行われたことから、この箇所の広葉樹侵入等に関するモニタリング調査を平成28年度から令和7年度までの10年間行ってきた、その結果について発表しました。

調査方法は、同じ小班内で条件の異なる伐採列A・B・C区域の中に各3プロット計9プロット設定し、その中の高木性広葉樹稚樹の本数と樹高を測定しました。



会場で発表している様子



現地位置図



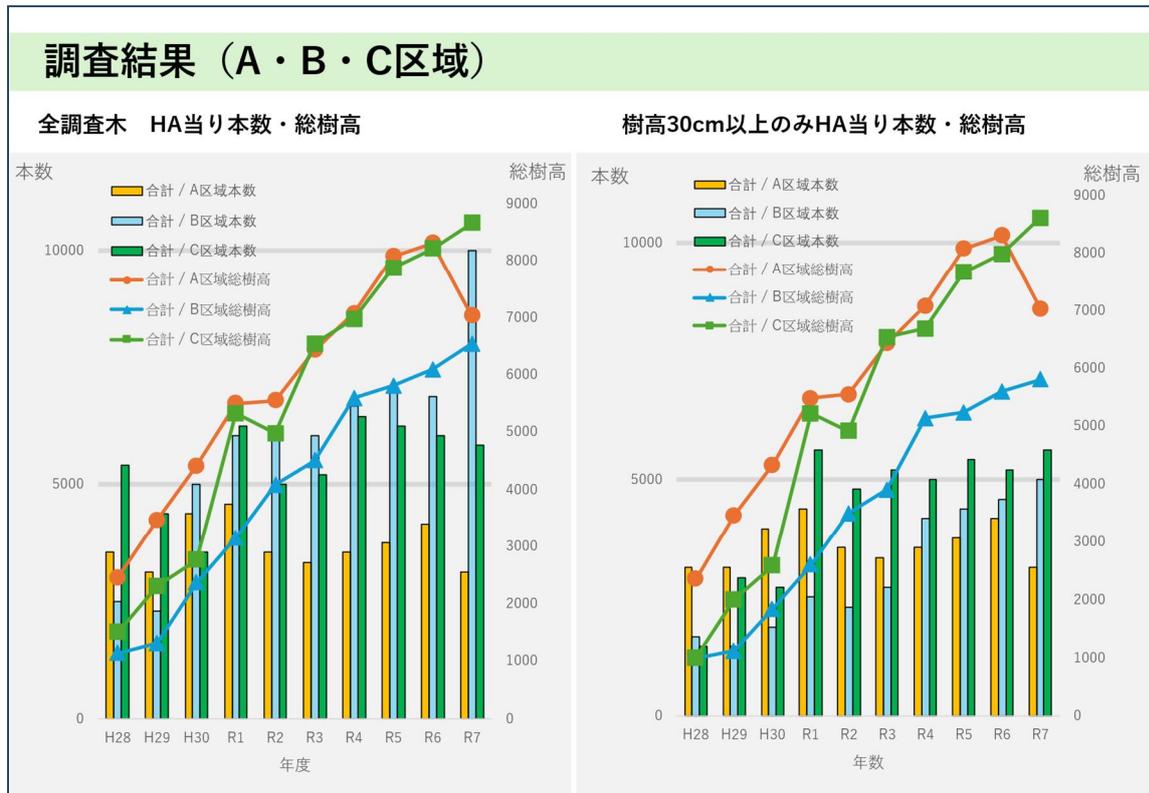
B区域プロットの様子

A、B、C区域それぞれの条件は、

A区域 通常の列状間伐で行われる、搬出路に対して直角の伐採列

B区域 広葉樹保護樹帯に隣接する伐採列

C区域 日照を考慮して南北方向に設置した伐採列 と設定しました。



10年間の調査結果は上のグラフになります。本数を棒グラフ、総樹高を折れ線グラフで表しています。

各区域ごとの特徴をまとめると、

A区域 新たな稚樹の発生は少なかったものの、伐採列にあった前生稚樹（伐採前から林床に生育していた稚樹）が順調に成長しました。

B区域 近くにある広葉樹の保護樹帯からの種子によるものと思われる、多くの実生（種子が発芽して生育した稚樹）の発生がありました。他の区域に比べると樹高成長は遅いものの、順調に成長しました。

C区域 日当たりが良いため多くの稚樹の発生があり、樹高成長も3つの区域の中で一番良い結果となりました。

結論として間伐し林床に光を当てると、広葉樹の稚樹の発生や前生稚樹を含む稚樹の成長を促せる結果となりました。スギ人工林の針広混交林・広葉樹林化を目指すには、間伐を行い、林床に光を当てることと、前生稚樹をなるべく残すことが重要であると考えられます。

発表会場のあきた芸術劇場ミルハスは秋田市中心部の千秋公園の中に令和4年に新しく出来たばかりの立派な建物で、森林・林業技術交流発表会の会場となったのも今回が初めてということもあり、大変緊張しました。